

特定非営利活動法人
日本小児循環器学会 理事会
2023 年度第1回理事会 議事録

1. 日時

2023 年 11 月 4 日(土)10:00~13:20

2. 場所

Web 会議(zoom 使用)

3. 出席者

理事総数:20 名、出席理事 18 名

理事長:山岸敬幸

副理事長:坂本喜三郎

出席理事:赤木禎治、犬塚亮、岩本眞理、大内秀雄、落合由恵、小野博、城戸佐知子、
金成海、須田憲治、瀧間浄宏、豊野学朋、中野俊秀、檜垣高史、星合美奈子、
増谷聡、三谷義英

欠席理事:笠原真悟、鈴木孝明

出席監事:市田路子、河田政明、土井庄三郎

出席幹事:青木雅子、津村早苗、中川直美、永井礼子

4. 議長

理事長 山岸敬幸

5. 議事の経過の要領及びその結果

定刻となり定款第 26 条 3 項により山岸敬幸理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より本理事会は定款第 27 条 2 項の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨の報告があった。議長より、本理事会の議事録署名人として、岩本理事と犬塚理事が選任された。

6. 審議事項

第1号議案:心疾患実態調査システムの管理権限について(犬塚理事)

提案内容:心疾患実態調査システムについて、データベース委員会の委員長にも管理権限を付与したい。

議決結果:全員一致で承認された。

第2号議案:宮田賞の賞金増額と規約改定について(犬塚理事)

提案内容: Miyata Foundation Award について、宮田財団から助成金を 50 万円/名から 100 万円/名に増額したいと提案があり、必要な学会規約の修正を実施して、これを受け入れたい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第3号議案:若手の国際学会発表Awardの提案(三谷理事)

提案内容: 若手の国際学会 Award について、AHA、WCPCCS に演題採択された若手会員が応募できる Award を設立したい。助成額はそれぞれ 10 万円/人×3 名で、45 歳未満を対象とする。

議決結果: 全員一致で承認された。

本議案については多くの議論があったので、その内容を以下に別添としてまとめる。

提議内容

- Oral と poster のどちらを優先するのか、明らかにされたい。
- 科研費を取得している者は対象となるのか、明らかにされたい。
- 看護部門からの学会発表も対象にするよう考慮してもらいたい。
- 応募者多数の場合の取り決めなどのルール作りが必要である。
- COI を踏まえて審査すべきである。
- 学会員でない応募者の扱いを決めるべきである。

上記に対する説明

- 詳細なルールについて、渉外委員会で決めていきたい。また、非会員を採択することはない。

第4号議案:JCK2024 の名称と企画への関わりについて(三谷理事)

提案内容: JCK2024 の名称について、Japan-China-Korea とすると国際情勢・政治的な問題により、香港、台湾などからの参加が望めない。今後、JCK をスペルアウトすることをやめて、JCK-Asian Pasific Heart Forum という名称として、広くアジアから演題・参加を募集したい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第5号議案:地域拠点化小委員会への委員追加について(中野理事)

提案内容: 地域拠点化小委員会の委員追加について、鈴木孝明理事に CHSS Japan からオブザーバーとして参加いただきたい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 6 号議案: 育成プログラム「規則」、「実施要項」の改訂(中野理事)

提案内容: 育成プログラムの規則、実施要項の改訂について。修練医から参加登録申請料 10,000 円、維持費用を 3,000 円徴収、レベル認定の審査料は各回 10,000 円、委員は 10 名以下としたい。要項について、認定レベルの術式の細かな修正を実施したい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 7 号議案: 育成プログラム 開始年度予算および次年度以降の年間運営予算申請(中野理事)

提案内容: 育成プログラムの開始年度予算および次年度以降の年間運営予算を申請したい。修練医登録 150 名&レベル認定申請 40 名/年、修練医登録 75 名&レベル認定申請 20 名/年の試算。初年度事務経費が多く赤字になるが、次年度以降は縮小する計画。

議決結果: 全員一致で承認された。

本議案については多くの議論があったので、その内容を以下に別添としてまとめる。

提議内容

- 修練医登録者が含まれる範囲を明示されたい。
- JCVSD先天性部門のデータベースとの関わりを明らかにされたい。
- 事務作業は誰が担当するのか、明らかにされたい。
- この育成プログラムに一般の外科医がどのような印象を持っているのかを明らかにされたい。

上記に対する説明

● レベル 2 を目指す外科医もいれば、レベル 3 を目指す者もいると考えられる。レベル 2 までで十分と考える外科医は、自己判断で修練医登録を修了することがありうる。JCVSD先天性部門のデータベースを使用できることについて、プログラム登録時に助言している。必要となる事務作業は、委員会メンバーと学会事務局とで実施可能と判断している。U40 の外科系委員からも、このプログラムであれば遂行可能との意見が得られている。

第 8 号議案: 「手術材料 WG」の設置について(金理事)

提案内容: 同エリア内、新規の臨床試験委員会(小林徹委員長、三浦大副委員長)に所属した「手術材料WG」を設置としたい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 9 号議案: シンフォリウム適正使用指針(金理事)

提案内容: 新しい心血管修復パッチ「シンフォリウム」の適正使用指針(案)について、承認を得たい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 10 号議案: シンフォリウム適正使用指針の管理・運用組織(金理事)

提案内容: 新しい心血管修復パッチ「シンフォリウム」の管理・運用組織(案)について、承認を得たい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 11 号議案: シンフォリウム PMS 参加施設の選定方法(金理事)

提案内容: 新しい心血管修復パッチ「シンフォリウム」PMS 参加施設の選定方法について、承認を得たい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 9～11 号議案については多くの議論があったので、その内容を以下に別添としてまとめる。

提議内容

- PMS参加施設以外の施設もシンフォリウムを使用することができるのかを明示されたい。
- 施設基準に「日本小児循環器学会」が現時点で含まれていない。ワーキンググループを立ち上げるのであれば、本学会も載せてもいいのではないかと考えられる。
- ワーキンググループの業務を行うのは学会事務局か、企業が担当するのかを明示されたい。
- PMSの運用自体は企業が行うべきと考える。

上記に対する説明

- PMS参加施設は大動脈埋植を行う予定の施設となる。大動脈以外であればPMS参加施設以外の施設もシンフォリウムを使用できる。施設基準に「小児循環器学会」も含むように提案していくことが可能である(後日、この施設基準を含めた修正案を再提出する)。最終設定はワーキンググループで行われる。PMSの具体的な運用方法については、施設認定などの管理はワーキンググループにて、データ管理などの実運用は企業主体にて行っていく方針である。

第 12 号議案:「ワーファリン顆粒0.2%」に関する継続提供要望書(小野理事)

提案内容:ワーファリン顆粒 0.2%に関する継続提供要望書(案)について、承認を得たい。薬剤継続提供のために、その薬剤を積極的に使用していただきたい。

議決結果:全員一致で承認された。

第 13 号議案:その他の学会・研究会の単位認定について(増谷理事)

提案内容:第 10 回Informal JCIC 関東甲信越研究会学術集会に 3 単位の認定をいただきたい。認定基準は満たしている。

議決結果:全員一致で承認された。

第 14 号議案:地方会委員会の名称変更について(増谷理事)

提案内容:「地方会等認定委員会」に名称を変更したい。実際には、地方会以外の単位認定についても委員会で検討している。

議決結果:全員一致で承認された。

第 15 号議案:その他の学会・研究会の単位フローについて(増谷理事)

提案内容:その他の学会・研究会、セミナー・講演会の単位認定のフローを改定したい。

議決結果:全員一致で承認された。

第 16 号議案:専門医受験申請書類 Web 登録システム導入について(増谷理事)

提案内容:専門医受験申請書類 web 登録システムを導入したい。専門医エリア・委員会の効率が上がる。一方、システム維持に年間約 100 万円を要する。受験料を現在の 3 万円から 4 万円に増額する、ないし専攻医から使用料を徴収して経費を捻出することを考えている。

議決結果:全員一致で「継続審議」となった。

本議案については多くの議論があったので、その内容を以下に別添としてまとめる。

提議内容

- Web 登録システムの導入により、毎年約 50 万円、学会として赤字になることが懸念される。受験料の増額と、専攻医からの徴収の両方がなければ補填は困難と考えられる。
- Web 登録システムの導入により、どの程度学会事務局の負担が改善するのかを明らかにされたい。
- Web 登録システムが専門医取得のみならず、更新にも利用できるのか、明ら

かにされたい。

- 導入時から赤字が当然という考え方は好ましくない。便利だから導入する、ではなく、具体的なスキームをたてる必要がある。なるべく専門医特別会計の中に収めるべきである。

上記に対する説明

- 受験料の増額と、専攻医からの徴収の両方の案を採用すれば、費用は賄えると考えている。web 申請に移行した場合、学会事務局の負担がどう変化するかについては、これから検証が必要。専門医更新への活用についてもこれから検討することとなる。→ システム導入および維持に伴う費用負担の方法と、Web 登録システム導入に伴う具体的な学会事務局の負担について、再度専門医エリアで検討する。

第 17 号議案:日本重症患者ジェット機搬送ネットワークのクラウドファンディング (檜垣理事)

提案内容:ドクタージェットクラウドファンディングについて、小児循環器学会会員全員に案内したい。

議決結果:全員一致で承認された。近日中に、学会ニュースメールで周知する。

第 18 号議案:定款施行細則の改訂について(山岸理事長)

提案内容:学術集会会長の決定方法に関する定款施行細則を改定したい。改訂案では、「立候補申請の有効期間は 1 年」、「他の年度にも立候補する場合には再度申請を必要とする」、「申請は他の年度には継続されない」の 3 つの候補のうち、「他の年度にも立候補する場合には再度申請を必要とする」を細則に追加したい。

議決結果:全員一致で承認された。

7. 報告事項

◆理事長報告 山岸理事長から

1. 要望書関連提出状況…資料 8(p.78)参照
2. 持ち回り理事会…資料 8(p.78)参照
3. その他…小児医学川野賞への応募希望があれば、学会から推薦できる旨を会員にメールで通知した。大阪大学小児科石田秀和先生から応募希望があり、学会から推薦した。

◆会長報告

1. 第 60 回学術集会準備報告 須田憲治会長から
現在、会長要望セッションを考案中。
概ね例年通りの企画となりそうである。
同時開催の JCK Asian Pacific Heart Forum 2024 も準備中。
委員会企画は、11 月中旬から下旬にかけて、学会事務局から各委員会に連絡が行き、12 月末頃までに決まる予定である。
2. 第61回学術集会準備報告 三谷義英会長から
2025 年7月 10-12 日開催予定。
運営事務局は第 60 回と同じ株式会社コンベンショナルリンクージに依頼している。

◆各エリア委員会報告

● 学術エリア

- ・学術委員会（犬塚亮委員長）犬塚理事から
肝臓病学会と成人先天性心疾患学会の合同で「FALD 診療の手引き」を作成予定。何を書くかについては決定しており、執筆者を決めて依頼予定である。
- ・内科系教育委員会（先崎秀明委員長）犬塚理事から
教育セミナー Advanced course の当番幹事は小垣滋豊先生（2024 年）、小野博先生（2025 年）に決定している。2025 年の Basic course をこれから決定する予定。
日本専門医機構への移行にあたり、e ラーニングや講習システムが必要になる可能性があり、構築準備を依頼している。
- ・データベース小委員会（関満委員長）犬塚理事から
心疾患実態調査のまとめがやや遅れているが、近日中に年次報告を出せると考えている。
- ・外科系教育委員会（櫻井一委員長）中野理事から

年 3 回の外科系教育セミナー開催を継続する。次回は 12 月 2 日予定。
過去のセミナーをアーカイブ化し、閲覧可能にすることが次の目標。

- ・形態登録小委員会(稲井慶委員長) 中野理事から
東京女子医科大学と京都府立医科大学協力のもと、50 検体の撮影が 10 月から開始された。現在 25 検体の撮影が終了し、残りをこれから撮影予定。近く閲覧可能となる予定である。
- ・研究委員会(新居正基委員長) 犬塚理事から
2023 年の新規課題研究 A が 2 題、課題 B が 2 題、採択された(資料 9, p.111, pp.117-162 参照)。
- ・遺伝子疫学小委員会(高月晋一委員長) 犬塚理事から
エコチル調査を解析して書かれた心疾患の環境的背景に関する論文が JAHA にアクセプトされた。近日中にニュースレターで報告される予定である。
- ・ガイドライン委員会(横山詩子委員長) 犬塚理事から
日本循環器学会から、次年度ガイドラインへの参画方法についてのアンケート調査があり、持ち回り審議で決定した内容で回答した(資料 9, p.113 参照)。
須田理事:学会合同でガイドラインを作成し、それが英文化された場合、小児循環器学会の英文誌にも出せるようにしてもらいたい。
犬塚理事:学会合同の場合はそれぞれの学会で英文誌に出す権利を有していると聞いている。
山岸理事長:日本循環器学会としては合同作成学会を減らす方向。今回の「感染性心内膜炎の予防と治療に関するガイドライン」と「2025 年フォーカスアップデート版 学校心臓検診」は小児循環器学会でも重要と考えられ、合同作成の希望を出した。英文化されれば小児循環器学会の英文誌にも出すことが可能である。
犬塚理事:編集委員会とも連携しながらタイムリーに出せるように進めていきたい。
豊野理事:「小児心不全薬物治療ガイドライン 2015 年」の改訂に関しては武田充人先生を中心に構想を練っている。場合によっては理事会で審議いただく。
- ・学術集会支援委員会(早淵康信委員長) 犬塚理事から
学会主導セッションのコーディネーター・サブコーディネーターを承認いただいたので、今後スピーディに進めていく。
- ・ジョイントセッション委員会(石川友一委員長) 犬塚理事から
資料 9, p115 参照。現在、多くの学会とのジョイントセッションが企画さ

れている。演者が特定の人に集中しないよう考慮している。

- ・顕彰委員会(小垣滋豊委員長) 犬塚理事から

Miyata Foundation Award の 2 回目受賞者がおり、今後、規定を変更するかどうするか検討していく。

- 渉外エリア

- ・渉外委員会(三谷義英委員長) 三谷理事から

AHA と AEPC で短期留学が再開となった。

AHA では日本から海外への留学を現在調整中。海外から日本への留学は連絡待ちである。

AEPC では日本から海外への留学、海外から日本への留学、共に今年度実施予定である。

次回、WCPCCS が 2025 年香港で開催予定。アジア開催ということで日本からも多く演題が出ることを期待している。Congress Chairman の Prof. Yiu-fai Cheung とともに連絡をとりながら進めていきたい。

- 次世代エリア

- ・次世代育成委員会(中野俊秀委員長) 中野理事から

資料 11, p.166 参照。

「提言」の今後の活用方法について、芳村直樹先生を中心に検討中。

自見はなこ議員とも連携し、「小児がん拠点病院」に準じた「小児循環器拠点病院」のような構想を学会からもアピールしていきたい。

- ・小児心臓血管外科医生涯育成プログラム小委員会(松久弘典委員長)中野理事から

年明けの運用開始を予定している。

- ・地域拠点化小委員会(瀧間浄宏委員長) 瀧間理事から

各地域の暫定的なグループ割を行い、各グループのまとめ役となる外科医とのミーティングを行った。各施設への依頼文、グループミーティングのための資料、事前アンケートを作成済みで、これらを今月中に発送予定である。実際のグループミーティングは 2 ヶ月以内に始まると予想している。

- ・多領域専門職委員会(仁尾かおり委員長) 落合理事から

資料 11, pp.167-168 参照。

山岸理事長:オンデマンド配信が遅れているようだが現状はどうか。

落合理事:昨年 7 月に理事会の承認を得たが、まだ実現していないようである。1 ヶ月前に映像の修正(不要部分のカット)を依頼しているが返事がないままである。

- ・働き方改革委員会(武田充人委員長) 岩本理事から
委員会内のキックオフミーティングを近日行う予定である。
男女に限らず、臨床、研究、教育すべてを含め、良い形での働き方を考えていく。次回の学術集会で委員会セッションを開きたいと考えている。

- 専門医制度エリア

- ・専門医制度・認定委員会(増谷聡委員長) 増谷理事から
資料 12, p170 参照。
日本小児循環器専門医が、機構が指定するカテゴリ-1 に入れるようカリキュラムの改訂、整備を行っている。小児科学会の鈴木康之先生(岐阜大学)にも改訂内容をご確認いただいている。
評議員による確認を依頼しているが、現時点で具体的な改訂意見は出ていない。

星合理事:来年度 4 月から機構認定の専門医制度に入ることを目指している

- ・専門医試験委員会(平田陽一郎委員長) 増谷理事から
資料 12, p171 参照。
- ・専門医カリキュラム委員会(麻生健太郎委員長) 増谷理事から
資料 12, p172 参照。申請と承認の電子化に関しては、事務局の負担、金銭面、専門医の更新にも使えるかどうかなど、具体的な損得をもう少し詰めていく予定である。

- 学術誌エリア

- ・和文誌編集委員会(高橋健委員長) 大内理事から
投稿数が減っており、review など教育的な内容が中心となっている。投稿促進のために学術誌エリアで賞などを設けるのも一つかもしれない。
山岸理事長:既に賞はある。委員会としてこれ以外にも賞を設けたいということであれば、理事会前に顕彰委員会と相談して検討してほしい。
岩本理事:学術集会での座長からの推薦投稿を復活させてはどうか。
大内理事:過去に行っていたが効果が薄かった。
山岸理事長:優秀な演題は IF の高い雑誌に投稿されてしまうことが多い。優秀な症例報告を座長がピックアップできるとよいのでは。和文誌は(教育講演の)総説や若手育成のための症例報告等でオリジナリティを出すのがよいかもしれない。

- ・英文誌編集委員会(上村秀樹委員長) 大内理事から
資料 12, pp177-178 参照。
現在、投稿規定を大幅に見直し中である。今年中に改訂される予定で、改訂が終了した時点でアニュアルレポートなどを小児循環器学会の各分科会

や部会に担当者を通じてデータアークとして依頼する予定である。
関係者のご協力をお願いしたい。

須田理事:2年でPubMed掲載や4年でIF取得など、具体的な目標を設定して頑張らないと行けないと考えている。

- 社会制度エリア

- 移植委員会(福嶋教偉委員長) 檜垣理事から

資料 14, p179 参照。

EXCOR の Ikus が製造中止となり、カルディオという代替機で対応することとなった。

犬塚理事:どういう経緯でそうなったのか。

檜垣理事:Ikus から新規の機械に代わっていく予定だが、その認可が遅れており、Ikus の製造中止が先になってしまった。それまでの間はカルディオがバックアップとなる。

小野理事:現在使用されている Ikus は、サポート期間中であれば必ずサポートされることになっている。サポート期間が終わった Ikus に関しては、次にまた Ikus を購入しようとしても、製造中止のため購入できない。後継機について、株式会社カルディオが PMD を出しているが、なかなか認可されないと聞いている。

- 小児慢性・難病対策委員会(檜垣高史委員長) 檜垣理事から

QT 延長症候群と CPVT について難病指定の新規申請を行った。

前回申請したが通らなかった川崎病の巨大冠動脈瘤と完全型房室中隔欠損についても、難病指定の新規申請を行った。

- 蘇生科学教育委員会(太田邦雄委員長) 檜垣理事から

資料 14, p180 参照。

愛媛県南予で開催の学校救急シミュレーションをビデオ撮影する予定である。学会ホームページへの掲載も検討したい。

- 学校心臓検診委員会(岩本眞理委員長) 岩本理事から

学校心臓検診の課題として、地域差がまだ大きいことが挙げられる。

学校保健会に全国調査を依頼したが、今回は実現しなかった。引き続き依頼していく。デジタル心電計の採用に関しても、すでにできている地域の進め方を共有したい。

- 移行医療委員会(落合亮太委員長) 城戸理事から

現在、委員会がどの程度活動しているのかわからない。委員長に現状を確認する。

- 学校と教育の連携委員会(内田敬子委員長) 檜垣理事から

蘇生科学教育委員会と合同ウェブサイトの作成を計画している。

学会ホームページの一般向けサイトからアクセスできるようにしたい。広報委員会とも相談しながら進める。

- 保険診療/臨床試験エリア 金理事から
資料 15, pp.183-186 参照。
CP スtent、カバード CP スtentの申請を行い、ほぼ承認の方向と聞いている。早ければ来年前半に流通する予定で、レジストリや適正使用指針を作成していく。
 - ・保険診療委員会(小野博委員長)
 - ・臨床試験委員会(小林徹委員長)
 - ・不整脈材料機器委員会(鈴木嗣敏委員長)
 - ・薬事委員会(坂口平馬委員長)
 - ・新しいカテーテル治療のあり方ワーキンググループ(杉山央委員長)
 - ・経カテーテル肺動脈弁留置術管理委員会(金成海委員長)
 - ・HBD for Children 委員会(山岸敬幸委員長)
- 医療安全・倫理エリア
 - ・医療安全委員会(鈴木孝明委員長) 瀧間理事から
第 60 回学術総会医療安全講習会講師を次回委員会で決定予定。
 - ・倫理委員会(前田潤委員長) 瀧間理事から
資料 16, p.187 参照。
 - ・利益相反委員会(山澤弘州委員長) 瀧間理事から
資料 16, p.188 参照。
- 未来予想図委員会 山岸理事長から
資料 17, pp.189-191 参照。
「小児・育成循環器学」が改訂となる。来年 4 月、遅くとも 7 月には発行したい。
次回の学術集会がちょうど 60 回、学会が 60 周年となるため、記念誌等を発行するか検討中。
 - ・未来予想図委員会(山岸敬幸委員長)
 - ・広報委員会(松井彦郎委員長)
 - ・小児循環器医療 DX 推進ワーキング(三谷義英委員長)

8. 懇談事項

- 「心臓手帳」について 河田監事から
従来、学校保健会が作成していた「心臓手帳」というものがある。各都道府県の教育委員会が管理しているが、認知度が低く、患者の 9 割以上が持っていない。今後、移行医療や震災などで役立つ可能性があり、こういった「心臓

手帳」の存在や活用法を医療者側から患者にアドバイスしてほしい。

中川幹事:心臓手帳には、毎年学校検診の際に記入するページがあるが、学校検診からは別の書類作成依頼が来て、都道府県によっては独自の書類があるため、さらにもう1枚作成依頼が来る。最大で3枚も同じ内容を記入しなければならないことがある。できれば全国的に統一するような仕組みを構築していただきたい。

河田監事:非常に重要なことである。ただ、「心臓手帳」に関しては、原則患者さんが自分で記入することになっている。そのように指導することで自分の病名や病態を知ってもらうことになる。心臓手帳は、現在、都道府県によって様式が異なるため、これをなんとか統一していきたいと考えている。

犬塚理事:心臓手帳のあり方については、社会制度エリアの取り組みとして検討してはどうか。

檜垣理事、岩本理事:そのようにしたい。

9. 閉会

以上をもって本日の議事を終了とし、議長から謝辞があり、閉会した。